

2年 【九九の指導】

九九の指導をするためには、まず、かけ算が用いられる実際の場面を通して、かけ算の意味について理解させることが大切です。そして、この意味に基づいて、九九を構成したり、その過程で九九について成り立つ性質に着目させたりすることが大切です。そうすることで、九九を身につけ、生活や学習の中で活用できるようにしていきます。

1. かけ算の意味を理解する

かけ算は、同じ数を何回も加えるたし算の簡潔な表現として用いられる。

ポイント 問題場面は、子どもたちの生活場面に密着したものにし、何回もたし算で計算しなくても、かけ算を使えば一回の計算で答えを求めることができるよさを味わわせるようにする。

2. かけ算の性質に着目する

九九の表を作ったり、観察したりすることで「かける数が1増えると答えはかけられる数ずつ増える」「かけられる数とかける数を交換しても答えは同じになる」という性質に着目させるようにする。

3. 九九を唱える練習をする

まずは、表を見ながら正しく覚えるようにする。教科書に載っている正しい唱え方ができるようにしっかり指導する。次に表を見な



いで覚えるようにする。それができたら、九九を逆に唱えたり、式の順番を入れ替えて答えをいったりするような練習も取り入れていく。

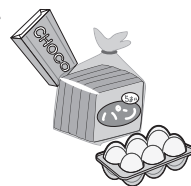
ポイント これらを教室の列ごとや班ごと、座席順などでするのもよい。また、カードを使って唱えたり九九カルタをしたり、九九を音楽や体に動きをつけて唱えたりすることもよくされている。九九合格表をつくって合格すればハンコやシールをあげて、がんばりを賞賛することも効果的である。



4. 生活の中で九九を活用する

算数は学習したことを生活の場面にかえすことが大切である。九九を生活の場面で活用させていく。

ポイント ゲームの得点をもとめるのにかかけ算を使ったり、身のまわりで、「○のだんになっているもの」を探させたりする。



九九は乗法の計算だけでなく除法の計算でも大変重要になってきます。そのためにしっかり習熟を図り、正しく速く用いることができるようにすることが大切です。かけ算の単元で終わってしまうのではなく、時間をかけて、「朝の会」や「算数の授業の始まり」の時間などを使って、繰り返し取り組んでいくようにしましょう。